

書誌第104号追

北海道沿岸水路誌

追補第2

令和7年（2025）12月5日発行



海上保安庁

北海道沿岸水路誌

追補第2

この追補は、令和6年12月刊行の北海道沿岸水路誌の記載事項を更新するもので、令和7年10月17日までに入手した資料を基に編集したものです。

追補は、更新情報を記載した「本文」と、それを検索するため、ページ番号等を記載した「索引」から構成されています。

「索引」については、更新箇所の表題や港名等を記載し、ページ番号順に並べています。

「本文」については、本追補の更新箇所は、灰色背景で赤色文字にて示しています。

【】で囲んだ内容は、削除や差し替えを行うことを意味しています。

図の挿入等によりページ内に収まらない場合は、水路誌本誌とのページ番号を整合させるため、追補においては、便宜的に枝番号を付しています。

令和7年12月5日

海上保安庁海洋情報部

注 意

海上保安庁は、各国が発布した諸法規、宣言、海図及び水路通報・航行警報並びに船舶等からの視認報告のうち、船舶交通の安全の確保と海洋環境の保全という観点から、航海の安全及び環境保全に影響を与える可能性のある情報については、水路通報及び航行警報により周知するほか、海上保安庁の海図その他の航海用刊行物にも掲載するようにしています。

これらの情報を利用するにあたっては、海上保安庁によるこれらの情報提供は、航海の安全等のための利用を目的としており、その内容は日本政府がこれらの諸法規、宣言等を承認したことを意味するものではない点に留意してください。

ページ	更新箇所（表題、港名等）	備考
8	気象情報	
15	水先人会	
62	函館港	
80	苫小牧港	
80-1	苫小牧港	
80-2	苫小牧港	
81	苫小牧港	
82	苫小牧港	
97	釧路港	
105	霧多布港	
126	紋別港	
146	天塩《テシオ》港～苫前《トママエ》埼	追補第1当該ページは無効
162	小樽港	

船舶気象通報 全国各地の主要な岬の灯台等航路標識 132 か所において、局地的な風向、風速、気圧及び波高の気象・海象の観測を行い、その現状をテレホンサービス及びウェブサイトで提供している。

船舶気象通報を行う航路標識の名称、観測種目、電話番号及び URL は書誌第 411 号「灯台表第 1 巻」に記載してある。

~~気象官署~~——本書の記載区域に関係のある気象台及び天気相談所は、次表のとおりである。

天気相談所 本書の記載区域に関係のある気象台の天気相談所は、次表のとおりである。

【表の差替え】

名 称	電話番号	備 考
札幌管区気象台天気相談所	011-676-5025	北海道地方の気象情報
仙台管区気象台天気相談所	022-290-5320	東北地方の気象情報

自動音声案内

第 3 章 海 象

海 流

北海道近海の海流の大勢は第 4 図のとおりで、対馬暖流とその分枝である津軽暖流、宗谷暖流及び寒流系の親潮などがあり、一般に暖流は夏季に、寒流は冬季に優勢である。

海 流	概 要
対馬暖流	本州北西岸に沿って日本海を北上し、北海道西岸に沿って北上を続ける。夏季における流速は 1kn 前後で、所によっては 1.5kn 以上となるが、冬季の流速は弱い。
津軽暖流	対馬暖流は、津軽海峡の西口付近で二分して、その大半は津軽暖流となって津軽海峡を東進する。同海峡を抜けてからすぐに南下する場合と、襟裳岬（41° 55.5' N 143° 15.0' E）の南西方 40M 付近まで達してから南下する場合とがあり、前者は冬季、後者は夏季に多い。流速は 1～3kn で、冬季よりも夏季のほうが強い。
宗谷暖流	対馬暖流の末流の一部は、宗谷暖流となって宗谷海峡に入り、更に北海道北岸に沿って南東へ流れ、知床岬（44° 20.7' N 145° 20.0' E）沖まで達する。その流帯は距岸約 20M 以内にある。その末流は数分枝に分かれ、北転してオホーツク海に去るもの、根室海峡及び国後《クナシリ》水道（44° 27' N 146° 43' E）などに流入後南下するものがある。流速は春季～秋季には約 1.5kn で、夏季には 3kn に達する所もあるが、冬季には流れは衰退する。
親 潮	択捉島《エトロフトウ》（45° 04' N 147° 48' E）の南東側を南西方へ進む親潮は、東経 150 度～151 度付近及び同 146 度～147 度付近から南下する分枝を派生しながら、一部は北海道南岸東部に沿って南西方へ進み、更に津軽暖流に接し潮境を形成し、同 142 度～143 度付近を南下する。流速は 0.5kn 前後であるが、冬季～春季は、夏季に比べて流れが強い。

留萌水先区水先人会 TEL 0164-42-0446 FAX 0164-42-0553	<p>1 北口（北航路）入港船： 開発局留萌港西防波堤北灯台（43° 58.6′ N 141° 37.7′ E）から 300° 1,500m</p> <p>2 南口（南航路）入港船： 留萌港西防波堤南灯台（43° 57.8′ N 141° 37.4′ E）から 270° 1,500m</p> <p>3 荒天時（波浪が高く、港外において水先人が乗船不可能な場合）： 43° 58.5′ N 141° 37.8′ E（概位）</p>	<p>1 強風時、特に冬季間は高浪のため防波堤の外側で乗船できないことが多いため、水先艇（タグボート使用）は西防波堤北端の入口付近で待機し、本船の港内進入を待って乗船する。この時、パイロットラダーを左舷に用意すること。</p> <p>2 入港しようとする船舶は、天候が悪化してきた場合には、留萌港付近の気象、海象情報等を留萌海上保安部、船舶代理店等に必ず問い合わせること。</p>
小樽水先区水先人会 TEL 0134-22-5380 FAX 0134-22-5380	43° 12.5′ N 141° 02.4′ E	入港船はなるべく検疫錨地で水先艇を待つこと。

第 7 章 航行に関する諸注意

海 図

海図の基準 海上保安庁では、海難の防止を図るため航海上必要な海図の基準を設け、次の指導を行っている。

1 航海安全上必要な海図等の備え付け

日本周辺海域を航行する船舶は、次表に従い、航海を予定している海域の海図を備え付ける。

また、水路誌、潮汐表等、航海を予定している海域の状況を把握するために必要な航海用刊行物についても備え付ける。

航海を予定している海域の区分	航海安全上必要な海図
日本領海以遠（日本領海へのアプローチに係る海域に限る。）	50 万分の 1 より大縮尺の海図
日本領海内	25 万分の 1 より大縮尺の海図
海上交通安全法の適用がある海域	航行を予定している海域に係る海図
港則法の適用がある海域	航行を予定している海域に係る海図のうち、最も大縮尺の海図

2 事前調査

- (1) 航海計画策定にあたっては、海図等により航海予定海域の十分な調査を行い、航行する海域の状況を把握しておく。
- (2) 航行を予定している海域に適用される海上衝突予防法、海上交通安全法、港則法等の法規及び指導事項を十分理解、把握しておくとともに、これを遵守する。
- (3) 海図には予め、コースライン、避険線等障害物を回避するための情報等を記入しておく。

3 海図の適正使用

- (1) 海図は水路通報により最新の状態に維持する。
- (2) GPS 等の衛星航法装置と併用する場合には、測地系を一致させる。
- (3) 航行する海域に応じた適切な縮尺の海図を使用し、航海中常時使用可能な状態にしておく。

港湾施設

名 称			概 位	長さ (m)	水深 (m)	係船能力 (D/W×隻)	備 考
第1区	西ふ頭	D 岸 壁	41° 46.4′ N 140° 42.7′ E	140	3 5	1,000×2	
		E 岸 壁	41° 46.5′ N 140° 42.7′ E	165	9	10,000×1	
		F 岸 壁	41° 46.5′ N 140° 42.6′ E	105	未 測	3,000×1	
	豊川ふ頭岸壁		41° 46.2′ N 140° 43.1′ E	530	4～5	1,000×7	
第2区	弁天A岸壁		41° 47.0′ N 140° 42.3′ E	210	—	—	工事中
	弁天B岸壁		41° 46.9′ N 140° 42.3′ E	250	8～8.5	6,000 t×1	
	若松ふ頭岸壁		41° 46.4′ N 140° 43.3′ E	360	10～10.5	110,000 t ×1	
	海岸町4号船溜南側岸壁		41° 46.6′ N 140° 43.4′ E	190	2.5～6	500 t×2	
	海岸町4号船溜正面岸壁		41° 46.7′ N 140° 43.3′ E	270	6.5～7	500 t×4	
	海岸町4号船溜第1岸壁		41° 46.7′ N 140° 43.3′ E	210	4.5～6	100 t×4	
	海岸町4号船溜第2岸壁		41° 46.7′ N 140° 43.4′ E	150	4～4.5	100 t×3	
	海岸町4号船溜第3岸壁		41° 46.7′ N 140° 43.5′ E	210	4～4.5	100 t×4	
	海岸町2号船溜第1岸壁		41° 46.8′ N 140° 43.5′ E	70	5	1,000×1	
	海岸町2号船溜第2岸壁		41° 46.7′ N 140° 43.5′ E	200	4	50 t×5	
	中央ふ頭	南 側 岸 壁	41° 46.9′ N 140° 43.4′ E	133	7～8	7,000×1	前面に陰悪地がある。
		正 面 岸 壁	41° 47.0′ N 140° 43.3′ E	130	7～7.5	1,000×1	
		北側第1岸壁	41° 47.0′ N 140° 43.4′ E	171	7～8.5	10,000×1	前面に陰悪地がある。
		北側第2岸壁	41° 47.0′ N 140° 43.5′ E	165	7.5	10,000×1	前面に陰悪地がある。
		北側第3岸壁	41° 47.1′ N 140° 43.6′ E	90	2～5	3,000×1	
	万代ふ頭	南側第1岸壁	41° 47.2′ N 140° 43.5′ E	130	6～7.5	5,000×1	
		南側第2岸壁	41° 47.2′ N 140° 43.6′ E	90	2～5	2,000×1	
		正 面 岸 壁	41° 47.2′ N 140° 43.4′ E	185	9～10	15,000×1	前面に陰悪地がある。
第3区	北側第1岸壁	41° 47.3′ N 140° 43.5′ E	130	7～7.5	5,000×1	前面に陰悪地がある。	
		北側第2岸壁	41° 47.3′ N 140° 43.6′ E	90	3～5.5	2,000×1	前面に陰悪地がある。
	北ふ頭	南 側 岸 壁	41° 47.6′ N 140° 43.2′ E	90	4.5	2,000×1	
		正 面 岸 壁	41° 47.7′ N 140° 43.1′ E	190	6～6.5	7,000 t×1	耐震岸壁、カーフェリ 一用
第4区	北ふ頭	北 側 岸 壁	41° 47.7′ N 140° 43.1′ E	130	6	5,000×1	前面に陰悪地がある。
		A 岸 壁	41° 48.0′ N 140° 43.1′ E	51	3.5	700×1	前面に撤去跡がある。
		B 岸 壁	41° 47.8′ N 140° 43.2′ E	330	4～5	2,000×3	前面に陰悪地がある。
	港町ふ頭A岸壁		41° 47.9′ N 140° 42.8′ E	280	14	50,000×1	
	港町ふ頭B岸壁		41° 48.1′ N 140° 42.7′ E	240	12～12.5	30,000×1	
	港町係船くい		41° 48.3′ N 140° 42.8′ E	243	10	2,300×1	南側で埋立工事が実施されている。

海底管 函館港北副防波堤灯台(41° 48.4' N 140° 41.8' E)の西方約0.8M～北東方の海岸間に廃棄海底輸送管がある。

港則 ~~進路の表示（平成7年海上保安庁告示第35号「港則法施行規則第11条第2項の港を航行するときの進路を表示する信号」、平成22年海上保安庁告示第94号「港則法施行規則第11条第1項の規定による進路を他の船舶に知らせるために船舶自動識別装置の目的地に関する情報として送信する記号」）~~

【表の差替え】

特定航法 (港則法施行規則 第21条の5)	船舶は、苫小牧港においては、次の航法によらなければならない。 (1) 南ふ頭南端から119度30分に引いた線（以下この節において「A線」という。）から第1区に向かう総トン数500t以上の船舶（A線を横切って入航するものを除く。以下この号において同じ。）とA線を横切って入航する総トン数500t以上の船舶とが会おうおそれのある場合は、北側海面から第1区に向かう総トン数500t以上の船舶は、A線を横切って入航する総トン数500t以上の船舶の進路を避けること。 (2) 第1区から北側海面に向かう総トン数500t以上の船舶（A線を横切って出航しようとするものを含む。以下この号において同じ。）と北側海面からA線を横切って出航する総トン数500t以上の船舶（第1区から北側海面に向かうものを除く。以下この号において同じ。）とが会おうおそれのある場合は、第1区から北側海面に向かう総トン数500t以上の船舶は、北側海面からA線を横切って出航する総トン数500t以上の船舶の進路を避けること。		
航行に関する注意 (港則法施行規則 第21条の6)	1 総トン数500t以上の船舶は、中央南ふ頭西岸壁西端から353度に引いた線以西の第1区及び第2区（以下この項及び別表第4において「苫小牧水路」という。）若しくは苫小牧水路を除いた第1区（別表第4において「勇払水路」という。）を航行して入航し、又は出航しようとするときは、法第38条第2項各号に掲げる事項（同項第3号に掲げる事項は、入航しようとするときにあっては苫小牧水路入口付近に達する予定時刻とし、出航しようとするときにあっては運航開始予定時刻とする。）を、それぞれ入航予定日又は運航開始予定日の前日午後4時までに港長に通報しなければならない。 2 前項の事項を通報した船舶は、当該事項に変更があったときは、直ちに、その旨を港長に通報しなければならない。 （参考）港則法第38条第2項各号に掲げる事項 (1) 当該船舶名称 (2) 当該船舶の総トン数及び長さ (3) 当該水路を航行する予定時刻 (4) 当該船舶の連絡手段 (5) 当該船舶が停泊し、又は停泊しようとする当該特定港の係留施設		
進路表示信号(平成7年海上保安庁告示第35号)及び船舶自動識別装置の目的地に関する記号(平成22年海上保安庁告示第94号)	進路を表示する国際信号旗	進路を示す記号	信 文 ・ 進 路
	2代・C	C	第1区の開発フェリーふ頭(42° 38.2' N 141° 38.1' E)から中央北ふ頭2号岸壁(42° 38.8' N 141° 39.8' E)に至る間の係留施設に向かって航行する。
	2代・N	N	第1区の中央北ふ頭3号岸壁(42° 38.9' N 141° 40.0' E)から丸一鋼管岸壁(42° 39.4' N 141° 41.7' E)に至る間の係留施設に向かって航行する。
	2代・E	E	第1区の勇払ふ頭(42° 39.2' N 141° 41.9' E)から中央南ふ頭西岸壁(42° 38.6' N 141° 40.0' E)に至る間の係留施設に向かって航行する。
	2代・S	S	第1区のホクレン用栈橋(42° 38.6' N 141° 39.9' E)から苫小牧ふ頭(42° 37.8' N 141° 38.0' E)に至る間の係留施設に向かって航行する。
	2代・2・E	2E	第2区の入船ふ頭(42° 38.3' N 141° 37.7' E)から北ふ頭(42° 38.6' N 141° 37.4' E)に至る間の係留施設に向かって航行する。
	2代・2・W	2W	第2区の西ふ頭(42° 38.3' N 141° 37.4' E)又は南ふ頭(42° 38.0' N 141° 37.5' E)の係留施設に向かって航行する。

管制信号 苫小牧信号所(42° 37.8' N 141° 37.4' E)及び勇払《ユウフツ》信号所(42° 39.0' N 141° 40.3' E)において、電光表示盤により管制信号を行っている。苫小牧水路及び勇払水路を航行する船舶は、次表のとおり各信号所で行う信号に従って航行しなければならない。

水路名	信号の方法	信号の意味
苦小牧水路（中央南ふ頭西岸壁（42° 38.6' N 141° 40.0' E）西端から353 度に陸岸まで引いた線以西の第1区及び第2区）	I の文字の点滅	<ul style="list-style-type: none"> 入航船は、入航可 総トン数 500 t 以上の出航船は、運航を停止して待機 総トン数 500 t 未満の出航船は、出航可
	O の文字の点滅	<ul style="list-style-type: none"> 出航船は、出航可、ただし、第1区から北側海面に向かう総トン数 500 t 以上の船舶（A線を横切って出航するものを除く。）及び北側海面から第1区に向かう総トン数 500 t 以上の船舶は、運航を停止して待機 総トン数 500 t 以上の入航船は、水路外において出航船の進路を避けて待機 総トン数 500 t 未満の入航船は、入航可
	F の文字の点滅	<ul style="list-style-type: none"> 総トン数 500 t 以上の入航船は、水路外において出航船の進路を避けて待機 総トン数 500 t 以上の出航船は、運航を停止して待機 総トン数 500 t 未満の入出航船は、入出航可
	X / I の文字の交互点滅	<ul style="list-style-type: none"> 水路内において航行中の入出航船は入出航可 水路外にある総トン数 500 t 以上の入出航船は、水路外において、水路内において航行中の入出航船の進路を避けて待機 水路外にある総トン数 500 t 未満の入出航船は、入出航可 信号が、まもなく I の文字の点滅に変わる
	X / O の文字の交互点滅	<ul style="list-style-type: none"> 水路内において航行中の入出航船は入出航可 水路外にある総トン数 500 t 以上の入出航船は、水路外において、水路内において航行中の入出航船の進路を避けて待機 水路外にある総トン数 500 t 未満の入出航船は入出航可 信号が、まもなく O の文字の点滅に変わる
	X / F の文字の交互点滅	<ul style="list-style-type: none"> 水路内において航行中の入出航船は入出航可 水路外にある総トン数 500 t 以上の入出航船は、水路外において、水路内において航行中の入出航船の進路を避けて待機 水路外にある総トン数 500 t 未満の入出航船は、入出航可 まもなく信号が F の文字の点滅に変わる
	I / T の文字の交互点滅	<ul style="list-style-type: none"> 入航船は、入航可 総トン数 500 t 以上の出航船は、運航を停止して待機、ただし、北側海面から第1区に向かう船舶は出航可 総トン数 500 t 未満の出航船は、出航可
	O / T の文字の交互点滅	<ul style="list-style-type: none"> 出航船は、出航可、ただし北側海面から第1区に向かう総トン数 500 t 以上の船舶は運航を停止して待機 総トン数 500 t 以上の入航船は水路外において、出航船の進路を避けて待機、ただし、第1区から北側海面にある岸壁に向かう船舶は入航可 総トン数 500 t 未満の入航船は、入航可
	X の文字の点滅	<ul style="list-style-type: none"> 水路内において航行中の入出航船は入出航可 水路外にある入航船は、水路外において、水路内において航行中の出航船の進路を避けて待機 まもなく信号が X の文字の点灯に変わる
	X の文字の点灯	港長の指示を受けた船舶以外は、入出航禁止
勇払水路（苦小牧水路を除いた第1区）	I の文字の点滅	<ul style="list-style-type: none"> 入航船は、入航可 総トン数 500 t 以上の出航船は、運航を停止して待機 総トン数 500 t 未満の出航船は、出航可
	O の文字の点滅	<ul style="list-style-type: none"> 出航船は、出航可 総トン数 500 t 以上の入航船は、運航を停止して待機 総トン数 500 t 未満の入航船は、入航可

	F の文字の点滅	<ul style="list-style-type: none"> ・総トン数 500 t 以上の入出航船は、運航を停止して待機 ・総トン数 500 t 未満の入出航船は、入出航可
	X / I の文字の交互点滅	<ul style="list-style-type: none"> ・水路内において航行中の入出航船は入出航可 ・水路外にある総トン数 500 t 以上の入出航船は、水路外において、水路内において航行中の入出航船の進路を避けて待機 ・水路外にある総トン数 500 t 未満の入出航船は、入出航可 ・まもなく信号が I の文字の点滅に変わる
	X / O の文字の交互点滅	<ul style="list-style-type: none"> ・水路内において航行中の入出航船は入出航可 ・水路外にある総トン数 500 t 以上の入出航船は、水路外において、水路内において航行中の入出航船の進路を避けて待機 ・水路外にある総トン数 500 t 未満の入出航船は、入出航可 ・まもなく信号が O の文字の点灯に変わる
	X / F の文字の交互点滅	<ul style="list-style-type: none"> ・水路内において航行中の入出航船は入出航可 ・水路外にある総トン数 500 t 以上の入出航船は、水路外において、水路内において航行中の入出航船の進路を避けて待機 ・水路外にある総トン数 500 t 未満の入出航船は、入出航可 ・まもなく信号が F の文字の点灯に変わる
	X の文字の点滅	<ul style="list-style-type: none"> ・水路内において航行中の入出航船は入出航可 ・水路外にある航行中の入出航船は、水路外において、水路内において航行中の入出航船の進路を避けて待機 ・まもなく信号が X の文字の点灯に変わる
	X の文字の点灯	港長の指示を受けた船舶以外は、入出航禁止

航泊制限 引火による船舶の事故を防止するため、一般船舶は港内停泊中の引火性危険物積載タンカー（タンク船を含む。）から 30m 以内の海面への立ち入りが禁止されている。

錨泊禁止

- 1 第1区及び第2区は、錨泊が禁止されている。
- 2 西港区（西港）及び東港区（東港）の港口付近は、錨泊禁止区域になっている。

錨地

- 1 検疫錨地は、第3区にある。
- 2 危険物積載船は、第4区に錨泊しなければならない。錨泊の際には、海底線（海底線の項参照）及び海底輸送管（シーバースの項参照）に注意を要する。

錨泊上の注意

- 1 苫小牧海上交通安全協議会合意事項（~~入港上の注意の項参照~~）に基づき、第3区及び第4区に錨泊する船舶は、船名、錨泊地点、錨泊時刻、抜錨予定時刻及び~~苫小牧港東外防波堤灯台（42° 36.9' N 141° 37.2' E）の通過予定時刻~~を苫小牧信号所（TEL 0144-34-3074）又は「ほっかいどうほあん」に通報する必要がある。
- 2 底質は、主に砂、軽石等で錨かきが悪く、強風の際には、走錨に注意しなければならない。特に南寄りの強風時にあっては、走錨による乗揚げ事故が発生しており、錨泊には適さない。このため、~~15m/s 以上の~~南寄りの風が連吹する場合（連吹すると予想される場合も含む。）には、苫小牧港長から、苫小牧港及び周辺海域に錨泊する船舶に対して抜錨のうえ避難するよう「出域勧告（走錨注意情報）」を発令している。

通信 船舶と港長との間で VHF 無線電話による港務通信ができる（第1編、第8章 海難防止、港務通信の項参照）。

識別信号	呼出応答	通信	運用時間	連絡先	連絡の方法
ほっかいどうほあん	ch16	ch12	常時	苫小牧海上保安署	「ほっかいどうほあん」を呼出し、苫小牧海上保安署への接続を依頼する。

水先 苫小牧水先区水先人会に要請する（第1編、第6章 水先の項参照）。

港湾施設

西港区（西港）

名 称			概 位		長さ (m)	水深 (m)	係船能力 (D/W×隻)	備 考
第 1 区	晴海ふ頭	1 号岸壁	42° 38.6′ N	141° 39.2′ E	240	11.5～12	30,000×1	
		2 号岸壁	42° 38.5′ N	141° 39.1′ E	240	12～12.5	30,000×1	
		3 号岸壁	42° 38.5′ N	141° 38.9′ E	170	10	10,000×1	
	中 央 北 ふ 頭	1 号岸壁	42° 38.8′ N	141° 39.7′ E	186	9.5～10	15,000×1	
		2 号岸壁	42° 38.8′ N	141° 39.8′ E	240	11～11.5	30,000×1	
		3 号岸壁	42° 38.9′ N	141° 40.0′ E	230	11～12	30,000×1	
		4 号岸壁	42° 38.9′ N	141° 40.1′ E	130	6.5～7.5	5,000×1	
		5 号岸壁	42° 38.9′ N	141° 40.2′ E	130	7～7.5	5,000×1	
		6 号岸壁	42° 39.0′ N	141° 40.3′ E	69	7	5,000×1	東側に架空線（高さ 55 m）がある。

第1区	中央南ふ頭	西岸壁	42° 38.6' N 141° 40.0' E	165	9	10,000×1	
		1号岸壁	42° 38.6' N 141° 40.2' E	240	12~12.5	30,000×1	移動クレーン
		2号岸壁	42° 38.6' N 141° 40.3' E	240	12	30,000×1	移動クレーン
		3号岸壁	42° 38.7' N 141° 40.4' E	130	7.5	5,000×1	
	勇払ふ頭	1号岸壁	42° 39.0' N 141° 41.6' E	280	12~12.5	30,000×1	
		2号岸壁	42° 39.1' N 141° 41.7' E	185	10	15,000×1	
		3号岸壁	42° 39.1' N 141° 41.8' E	130	7~7.5	5,000×1	
		4号岸壁	42° 39.2' N 141° 41.9' E	130	7.5	5,000×1	
		5号岸壁	42° 39.3' N 141° 41.8' E	240	12	30,000×1	
		6号岸壁	42° 39.4' N 141° 41.8' E	165	9	10,000×1	
第2区	南ふ頭	1号岸壁	42° 38.1' N 141° 37.5' E	185	10	15,000×1	
		2号岸壁	42° 38.0' N 141° 37.5' E	185	9.5~10	15,000×1	
		3号岸壁	42° 37.9' N 141° 37.5' E	195	11	20,000×1	
	西ふ頭	1号岸壁	42° 38.2' N 141° 37.4' E	220	8.5~9	10,000×1	
		2号岸壁	42° 38.3' N 141° 37.4' E	220	9	10,000×1	
		3号岸壁	42° 38.4' N 141° 37.3' E	220	8~8.5	10,000×1	耐震岸壁
	北ふ頭	1号岸壁	42° 38.5' N 141° 37.3' E	130	5.5~6.5	5,000×1	
		2号岸壁	42° 38.6' N 141° 37.4' E	130	7.5	5,000×1	
		3号岸壁	42° 38.6' N 141° 37.4' E	90	5	2,000×1	
		4号岸壁	42° 38.6' N 141° 37.5' E	90	4.5(*)~5	2,000×1	(*) 報告水深
	東ふ頭	3号岸壁	42° 38.4' N 141° 37.7' E	146	9~10	10,000×1	
		4号岸壁	42° 38.5' N 141° 37.6' E	165	9	10,000×1	
		5号岸壁	42° 38.6' N 141° 37.6' E	130	7~8(*)	10,000×1	(*) 報告水深
		6号岸壁	42° 38.6' N 141° 37.5' E	130	4.5(*)~6.5(*)	10,000×1	(*) 報告水深
	入船ふ頭岸壁		42° 38.3' N 141° 37.7' E	330	10.5~14	40,000×1	

東港区（東港）

名 称			概 位	長さ (m)	水深 (m)	係船能力 (D/W×隻)	備 考
第4区	中央ふ頭	2号岸壁	42° 36.5' N 141° 46.9' E	330	14	30,000×1	コンテナクレーン、耐震岸壁
		3号岸壁	42° 36.7' N 141° 47.0' E	330	13.5~14	50,000×1	コンテナクレーン
	周文ふ頭2号岸壁		42° 36.6' N 141° 49.2' E	240	12以下	30,000×1	カーフェリー用、南西側で岸壁築造工事が実施されている。

※上表のほか、西港区（西港）及び東港区（東港）とも会社専用の係船施設が多数ある。

シーバース 第4区に出光北海道シーバース（42° 36.3' N 141° 38.7' E）があり、北方の海岸との間に海底輸送管（油）が敷設されている。

架空線 勇払水路を横断する架空線（高さ55m）がある。

港湾施設

西 区

名 称		概 位	長さ (m)	水深 (m)	係船能力 (D/W×隻)	備 考
第1区	第1石油栈橋1号～4号	42° 59.7' N 144° 20.7' E	520	5.5～7.5	5,000 t×4	
	東側－5.5m岸壁1号	42° 59.8' N 144° 20.6' E	90	5～5.5	2,000 t×1	
	東側－9m岸壁 2号・3号	42° 59.7' N 144° 20.5' E	330	6.5～8.5	10,000 t×2	
	南側－12m岸壁4号	42° 59.7' N 144° 20.3' E	240	10.5～11	30,000×1	
	西側－10m岸壁5号	42° 59.7' N 144° 20.3' E	185	9～9.5	15,000×1	
第2区	西側－9m岸壁 6号・7号	42° 59.9' N 144° 20.4' E	330	8.5～9	10,000 t×2	
	東側－5.5m岸壁8号	42° 59.9' N 144° 20.2' E	90	5	2,000 t×1	
	東側－7.5m岸壁9号	42° 59.9' N 144° 20.2' E	130	7.5	5,000 t×1	
	東側－10m岸壁10号	42° 59.8' N 144° 20.1' E	185	10	15,000 t×1	
	バルク1号栈橋	42° 59.7' N 144° 19.9' E	300	14	85,000 級 ×1	
	バルク2号栈橋	42° 59.7' N 144° 19.9' E	170	未 測	2,000×1	
	南側－12m岸壁 11号・12号	42° 59.8' N 144° 19.9' E	460	11～12.5 (*)	30,000×2	(*)11号東端部に未 測区域がある。 移動クレーン
	西側－9m岸壁13号	42° 59.8' N 144° 19.8' E	165	9	10,000×1	
	西側－7.5m岸壁14号	42° 59.9' N 144° 19.8' E	130	7.5	5,000 t×1	
	東側－5.5m岸壁15号	43° 00.0' N 144° 19.7' E	90	5.5	2,000 t×1	
	東側－7.5m岸壁16号	42° 59.9' N 144° 19.6' E	130	7.5	5,000×1	
	東側－7.5m岸壁17号	42° 59.8' N 144° 19.6' E	130	7.5	5,000×1	
	南側－12m岸壁18号	42° 59.8' N 144° 19.5' E	240	11～12	30,000×1	コンテナクレーン
	西側－12m岸壁19号	42° 59.9' N 144° 19.4' E	240	12	30,000×1	
	東側－10m岸壁21号	43° 00.0' N 144° 19.2' E	170	10	15,000×1	
	東側－12m岸壁22号	42° 59.9' N 144° 19.2' E	240	12	30,000×1	
	南側－14m岸壁23号	42° 59.8' N 144° 19.0' E	282	14	50,000×1	移動クレーン

概要 浜中湾（43° 07′ N 145° 10′ E）の南西奥にある港である。入出港船のほとんどが 50 t 未満の地元漁船で、過去の最大入港船舶は 623 t のタンカーである。

潮汐 この港における平均高高潮は 1.2m、平均低低潮は 0.3m、平均水面は 0.81m である。

目標

地物名	概位	備考
無線塔	43° 04.6′ N 145° 08.1′ E	高さ約 72m、灰色
2 無線塔	43° 04.8′ N 145° 08.3′ E	高さ約 85m及び約 103m、灰色

港湾施設

名称	概位	長さ (m)	水深 (m)	係船能力 (D/W×隻)	備考
－5m岸壁	43° 05′ 00″ N 145° 08′ 02″ E	70	4	－	
西－5m岸壁	43° 04′ 58″ N 145° 07′ 58″ E	193	4.5～5	－	

台風・津波対策 台風・津波等による海難事故を防止するため、厚岸港及び霧多布港津波・台風災害対策連絡会が設置されており、在港船舶などに対し、情報の伝達及び警戒体制・避難・入港制限の勧告・解除等の災害防止措置を指導している（問合せ先：釧路海上保安部 TEL 0154-21-5575）。

補給 清水、燃料油及び氷の補給ができる。

医療施設

名称	電話番号
浜中町立浜中診療所	0153-62-2233

浜中湾口～落石《オチイシ》岬（海図W25）

概要 浜中湾（43° 07′ N 145° 10′ E）口～落石岬（43° 09.5′ N 145° 29.8′ E）間は、概ね砂浜で、東端に落石岬が突出し、その西側に落石《オチイシ》湾（43° 10′ N 145° 28′ E）を形成している。

この海岸の距岸 1M 以内には陰礁が点在している。

落石岬の西方約 2M に水深 5m の暗岩、西南西 3M に昆布瀬（43° 08′ N 145° 26′ E）がある。昆布瀬は、西から上ノ瀬（暗岩）、中ノ瀬（干出岩、洗岩及び暗岩）並びに下ノ瀬（干出岩、洗岩及び暗岩）から成り、中ノ瀬及び下ノ瀬は、常に磯波が高い。昆布瀬は、落石岬灯台（43° 09.9′ N 145° 30.9′ E）の赤光分弧（048° ～070° ）で示される。

潮流 落石岬の南方約 3M（海面下 10m）における観測によれば、最強流速が 0.5kn の西流と 0.8kn の東流であった。

航行上の注意 昆布瀬に乘揚げた例があるので注意を要する。昆布瀬を避けるには、昼間は、暮霧磯《ボッキリイソ》埼（43° 10.1′ N 145° 31.5′ E）とユルリ島（43° 12.8′ N 145° 35.8′ E）北西端との重視線（044° ）を避陰線とし、夜間は、湯沸岬灯台（43° 04.6′ N 145° 10.1′ E）の赤光分弧（215° ～270° ）と落石岬灯台の赤光分弧を同時に見る区域に入らないようにすればよい。

なお、昆布瀬南側及び東側に定置網がある。

- 3 北～北東風の強吹時には、風浪、うねりが港内に侵入するため、第1船だまり（44° 21.2′ N 143° 21.5′ E）及び第2船だまり（44° 21.0′ N 143° 21.6′ E）以外は係留及び錨泊に影響を与える。

錨地

- 1 検疫錨地は、第2防波堤の北側にある。概ね錨かきが良いが、点在する陰悪地には注意を要する。
- 2 通常、開発局紋別港第3防波堤灯台（44° 20.5′ N 143° 22.9′ E）から240° 400m付近の水深約7m、底質砂の所に錨泊する。
- 3 第1ふ頭及び第2ふ頭並びに第3ふ頭の北側に至る港内は狭隘で、第1ふ頭の北東側には取水管も敷設されているので錨泊には適さない。

港湾施設

名 称		概 位	長さ (m)	水深 (m)	係船能力 (D/W×隻)	備 考
弁天－4.5m西岸壁		44° 21.3′ N 143° 21.6′ E	190	2(*)～3(*)	700×2	(*)報告水深
第1ふ頭	－7.5m東岸壁	44° 20.9′ N 143° 21.7′ E	131	6.5(*)～7.5	5,000×1	(*)報告水深
	－5.5m南岸壁	44° 20.8′ N 143° 21.6′ E	90	5.5以下	2,000×1	
第2ふ頭	－6m北岸壁	44° 20.8′ N 143° 21.7′ E	131	4.5(*)～6	3,000×1	(*)報告水深 北東側に沈鍾がある。
	－7.5m東岸壁	44° 20.7′ N 143° 21.8′ E	390	7(*)～7.5	5,000×3	(*)報告水深 北側に沈鍾がある。
	－7.5m南岸壁	44° 20.6′ N 143° 21.9′ E	130	7.5	5,000×1	
第3ふ頭	－12m北岸壁	44° 20.4′ N 143° 22.2′ E	241	12	30,000×1	
	－7.5m南岸壁	44° 20.3′ N 143° 22.4′ E	130	7.5	5,000×1	
港南－7.5m岸壁		44° 20.2′ N 143° 22.4′ E	220	7.5	5,000×1	

最大入港船舶 2004年7月28日、客船飛鳥（28,856t、喫水6.7m）が港南－7.5m岸壁に着岸した。

台風・津波対策 台風・津波等による海難事故を防止するため、オホーツク海沿岸津波・台風等対策連絡会が設置されており、在港船舶などに対し、情報の伝達及び警戒体制・避難・入港制限の勧告・解除等の災害防止措置を指導している（問合せ先：紋別海上保安部 TEL 0158-27-5250）。

海事関係官公署

名 称	電 話 番 号
紋別海上保安部	0158-27-5250
札幌出入国在留管理局旭川出張所	0166-38-6755
函館税関釧路税関支署紋別出張所	0158-23-3500
小樽検疫所紋別出張所	(旭川空港出張所へ連絡) 0166-83-5180
横浜植物防疫所札幌支所	011-852-1809
紋別市港湾管理事務所	0158-24-2828

引船 引船がある。

補給 主な岸壁で給水ができる。燃料油の補給ができる。給油船がある。

港湾施設

名 称	概 位	長さ (m)	水深 (m)	係船能力 (D/W×隻)	備 考
日出岸壁	45° 11' 16" N 141° 08' 14" E	196	3.5～4.5	500×3	
日出第2岸壁	45° 11' 16" N 141° 08' 08" E	100	4.5～5	500×1	前面に陰悪地がある。
第2岸壁	45° 11' 14" N 141° 08' 02" E	108	3～3.5	500×2	
第3岸壁	45° 11' 17" N 141° 08' 00" E	118	3.5～5	1,000×1	
新港第1岸壁	45° 11' 19" N 141° 07' 48" E	153	5.5～9.5	3,000×1	カーフェリー用
新港第2岸壁	45° 11' 17" N 141° 07' 51" E	90	4.5～5.5	2,000×1	
新港第3岸壁	45° 11' 16" N 141° 07' 54" E	33	2.5～4.5	1,000×1	
新港第4岸壁	45° 11' 19" N 141° 07' 58" E	160	7.5	29,000×1	耐震岸壁

最大入港船舶 2019年6月22日、客船ぱしふいっくびいなす(26,594t、喫水6.6m)が新港第4岸壁に着岸した。

台風・津波対策 台風・津波等による海難事故を防止するため、道北地区台風・津波等対策協議会が設置されており、在港船舶などに対し、情報の伝達及び警戒体制・避難・入港制限の勧告・解除等の災害防止措置を指導している(問合せ先: 稚内海上保安部 TEL 0162-24-8810)。

補給 第3岸壁、新港第1岸壁及び新港第4岸壁で給水ができる。燃料油及び氷の補給ができる。

医療施設

名 称	電 話 番 号
利尻島国保中央病院	0163-84-2626

海上交通 6～9月、香深港{礼文島}との間にカーフェリー便がある。

仙法志《センポウシ》堆・武蔵堆(海図W41)

概要 利尻島(45° 11' N 141° 14' E)の南西方に仙法志堆(45° 01' N 140° 58' E)及び武蔵堆(44° 38' N 140° 25' E)があり、ともに好漁場である。

仙法志堆は、折込根《オリコミノネ》(45° 01.5' N 140° 52.7' E、水深42m)と利尻根(44° 59.9' N 141° 03.5' E、水深52m)とに分かれる。

武蔵堆北部の北武蔵堆に最小水深9.2m(44° 47.9' N 140° 18.5' E)がある。

天塩《テシオ》港～苫前《トママエ》埼(海図W1045)

概要 天塩港(44° 52.8' N 141° 43.9' E)から南方約15Mの間は砂浜で、そこから金比羅《コンピラ》岬(44° 33.8' N 141° 46.3' E)までの間は、高さ30～50m、のこぎりの歯のような形をした侵食された淡茶色の崖である。天塩港の南南東方約10Mに遠別《エンベツ》漁港(44° 43.3' N 141° 46.8' E)がある。

金比羅岬から苫前埼(44° 18.8' N 141° 38.8' E)間は、砂浜、石浜又は高さ20～30mの白茶色の崖が続いている。苫前埼の北北東方約4Mに羽幌《ハボロ》港(44° 22.4' N 141° 41.8' E)、同埼に苫前《トママエ》港(港則法適用港)(JP TJJ)がある。金比羅岬付近の距岸約0.5M以内に陰礁、羽幌港の西方約2.8Mに羽幌《ハボロ》礁(44° 22.3' N 141° 37.9' E、最小水深5.4m、底質岩)がある。

第1区	北浜岸壁		43° 12.5' N 141° 00.2' E	241	3(*)~4(*)	2,000×1	(*)報告水深
	手宮岸壁		43° 12.6' N 141° 00.2' E	136	4.5~5	1,000×1	
	手宮栈橋		43° 12.6' N 141° 00.3' E	132	3.5~4.5	600 t×1	
	厩町 -7.5m 岸壁	厩町1番	43° 12.6' N 141° 00.5' E	123	7	5,000×1	西端部前面に多数の水没くいがある。
		厩町2番	43° 12.6' N 141° 00.6' E	141	7	5,000×1	
		厩町3番	43° 12.7' N 141° 00.7' E	126	6.5	5,000×1	
第2区	若竹地区-10m係船杭		43° 11.2' N 141° 01.7' E	301	7.5~11	15,000×1	前面に陰悪地がある。
	勝納ふ頭	勝納1番	43° 11.3' N 141° 01.4' E	260	11.5~12	40,000×1	移動クレーン、前面に陰悪地がある。
		勝納2番	43° 11.4' N 141° 01.3' E	169	9.5	12,000×1	カーフェリー用
		勝納3番	43° 11.5' N 141° 01.2' E	201	9~9.5	12,000×1	カーフェリー用
		勝納4番	43° 11.5' N 141° 01.1' E	185	8~9.5	12,000×1	カーフェリー用
		勝納5番	43° 11.4' N 141° 00.9' E	251	7.5~9	20,000 t×1	カーフェリー用、前面に陰悪地がある。
	中央ふ頭	中央1番	43° 11.5' N 141° 00.8' E	130	5.5~6.5	5,000×1	前面に陰悪地がある。
		中央2番	43° 11.6' N 141° 00.9' E	182	8	12,000×1	
		中央3番	43° 11.7' N 141° 00.9' E	185	9.5~10	12,000×1	前面に沈木がある。
		中央4番	43° 11.7' N 141° 00.8' E	247	11.5~12	30,000×1	移動クレーン
		中央5番	43° 11.7' N 141° 00.6' E	130	8~9	5,000×1	
第3区	高島地区-5m岸壁		43° 12.9' N 141° 00.9' E	473	4~4.5	600 t	
	高島-4.5m岸壁		43° 13.1' N 141° 00.9' E	130	未測	500 t	
	南高島岸壁		43° 13.1' N 141° 00.9' E	160	4~4.5	500 t×1	

最大入港船舶 2024年9月7日、客船 CARNIVAL PANORAMA (133,868 t、喫水 8.5m) が第1区、第3号ふ頭、16番及び17番岸壁に着岸した。

台風・津波対策 台風・津波等による海難事故を防止するため、石狩、後志地域台風・津波等対策協議会が設置されており、在港船舶などに対し、情報の伝達及び警戒体制・避難・入港制限の勧告・解除等の災害防止措置を指導している（問合せ先：小樽海上保安部 TEL 0134-23-0481）。

海事関係官公署

名 称	電 話 番 号
第一管区海上保安本部	0134-27-0118
小樽海上保安部（港長）	0134-23-0481
札幌出入国在留管理局小樽分室	0570-003259（電話番号の後に 210＃）
函館税関小樽税関支署	0134-23-4163
小樽検疫所	0134-23-4162
動物検疫所北海道・東北支所小樽港事務所	0134-33-2460
横浜植物防疫所札幌支所小樽出張所	0134-23-4166
小樽市産業港湾部港湾室	0134-23-1107